

初めての保育所実習におけるストレスについての考察

林 富公子

1. はじめに

保育実習とは、厚生労働省第1回保育士養成課程等検討会の資料(2009)によると、「習得した教科全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うため、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟させることを目的とするもの」である。つまり、これは単に卒業検定のような意味合いで保育者を目指す学生が取り組むものではなく、普段学生が学校で学んでいる理論や技術が、実際の現場でどのように応用できるかを学生自身が、子どもと関わりながら学ぶものと言える。また、実際に乳幼児や指導保育士と関わりながら「保育者」という仕事に取り組む保育実習は、保育者を目指す学生にとって、将来の職業を改めて具体的に考える課程であると考えられる。

一方、学生の中には実習に行く前から「本当に実習生としてやっていけるのか」や「保育者として働くことができるのか」と「不安」を訴える者、実習中に実習がしんどくて途中でリタイアする者、実習終了後に「保育者になりたくなかった」、「自分は保育者に向いていないと思った」と話す者もある。このことから学生にとって保育実習は、将来の職業に近づくため期待を持って取り組むものである反面、「不安」や「ストレス」となっていることも事実である。

「ストレス」とは、外的刺激による生体の非特異的な心理的・身体的歪みを指すもので、本来は物理・工学用語であったが、現在用いられているような意味で最初に使用したのはカナダの生理学者 Selye (1976) である。Selye は、外的刺激をストレッサー、それに対する心身の緊張をストレス反応と呼び、両者を包括した概念をストレスとした。また、Lazarus (1984) は個人が主観的にストサッサーを評定した結果がストレス反応につながる、という認知的ストレス理論を示した。このことから、「ストレス」を感じる学生すべてが実習を途中で辞めてしまうわけではなく、人によって認知するストレスが異なることから、逆に実習を通して保育者・人間として成長する学生も多くいると思われる。しかし、野崎・森野(2006)が、「実習ストレスは実習生の保育職に就く自信や意欲を低下させるなどネガティブな影響を及ぼすこと」を明らかにしたように、実習におけるストレスは学生が将来の進路を考える上で重要な事柄であると考えられる。

さらに、秋田(2000)が「保育は、子どもの発達に心を砕き育むケアの仕事である」と述べているように、実習生とはいえ子どもと関わる者がもつ心身ともに消耗した姿は、子どもにも何らかの影響があると思われる。このことから実習における実習生のストレスは、実習生本人はも

もちろん、実習生の実習先の子どもたちや実習先の先生方にとっても看過できない問題である。

CiNii を使用し「実習 ストレス」というキーワードで、実習に関するストレス研究について調査したところ（2011/06/29 現在）、233 件の検索結果が出たが、看護実習に関するものが約 115 件、教育実習に関するものが約 40 件で、保育実習に関するものは 17 件、その他、となった。さらに、その内 1 件は保育実習やストレスに関するものではなかったので実質 CiNii に掲載されている「保育所実習におけるストレス」に関する文献は 16 件であった。このことから、看護実習や教育実習に比べると、保育実習に関する先行研究が少ないといえる。

保育所実習を対象としたストレスやストレッサーに関する研究は、実習前後のストレス反応（鈴木・水田、2002；清水・松永・古谷、2008）、実習満足度得点と心理社会的ストレス要因得点との関連（北原、1994）、学生が取り組む保育所実習での、対人関係と保育活動におけるストレスに関する研究（千葉、2010）がある。また、植田（2002）は実習ストレスには個人差があること、実習ストレスを実習前の不安の程度から予測することは難しいこと、実習ストレスに関連するストレッサーは、子どもとのかかわりよりも、先生との人間関係にあること、実習ストレスと保育士に対する自信・イメージに強い関連があること、実習ストレスに対して効果的な対処が困難であることなどを見出した。

その他にも、実習生のケアリング行動と心理的ストレスの関連（音山、2003）や、実習における胎児ストレスとソーシャルサポートの関連（野島、2004）、保育者効力感・実習ストレスと援助要請過程との関連（野崎、2007）などがある。

しかし、これらの先行研究の多くは、2 回目の保育実習を対象にしたものが多く（植田、2002；音山、2003；野崎ら、2007；清水ら、2008；千葉、2010）、1 回目の保育実習を対象にした研究（北原、1994）の数は少ない。しかし、鈴木ら（2002）が、実習経験の有無（初めての实習かどうか）がストレス反応に影響を及ぼすと考えているように、学生にとって何回目の実習かどうかという問題は看過できないと考えられる。このことから、今回は 1 回目の保育実習に取り組む学生のストレスに関する調査を試みる。

2. 方 法

(1) 調査時期と調査対象

2010 年 11 月「保育実習 I」終了後、筆者の授業内において女子短大生 92 名に質問用紙を配布し、回答不備の者 2 名を除く 90 名を調査対象とした。対象者の年齢は 18～21 歳であった。

(2) 調査内容

調査内容は、フェイスシート、実習に対する感想、実習前の子どもとのかかわり、保育実習における実習ストレスに関する質問項目である（資料 1 参照）。

実習ストレスに関する質問項目は、

①2002年7月に実習を終えた近畿府県下にある幼児教育学科学生87名に指導保育士との関係、子どもとの関係、子どもの親との関係、保育技術、身体、その他の6項目において保育所実習におけるストレスに関する自由記述調査を行った。

②2009年7月に①とは異なる近畿府県下にある幼児教育学科の学生57名に実習においてストレスに感じたことを自由記述で記してもらった。

③①②の自由記述の内容を踏まえ、まとめたものを、①、②とは異なる保育者を目指す学生数名に吟味してもらい57項目を作成した。「全く思わない」から「とても思う」の5件法であった。

また、実習ストレスに関する質問項目を含む調査内容の文言などが学生にとって適切かどうかを検討するために、①、②、③とは異なる保育系の学生数名に調査票に答えてもらい、文言などの確認を行った。

3. 結果と考察

(1) 実習に対する思い

①実習が楽しかったかどうか

90名のうち実習がとても楽しかった者31名、少し楽しかった者29名、どちらともいえなかった者26名、あまり楽しくなかった者2名、まったく楽しくなかった者2名であった。とても楽しかった者と、少し楽しかった者の合計が60名(67%)であった。理由としては、子どもたちとかわれたことや、保育士との人間関係の良好さ、職場環境のよさ、などがあった。

②実習でストレスを感じたかどうか

とても感じた者26名、少し感じた者46名、どちらともいえない者6名、あまり感じなかった者7名、まったく感じなかった者5名であった。とても感じた者と、少し感じた者の合計が72名(.800)であり、多くの学生が何らかのストレスを感じていたことがいえる。理由としては、保育士との人間関係や、拘束時間の長さ、日誌や日々の緊張感や気疲れなどがあがった。

以上のことから、学生は実習に対して楽しいという思いを持ちつつも、日々の学生生活との違いからストレスを感じている者が多かった。

(2) 実習前の子どもとのかかわり

実習前に子どもと関わった経験がある学生は84名であった(.933)。中学校の職業体験が最も多く(50名 .556)、短大の園庭開放^{注1)}(45名 .500)、高校の授業(40名 .444)、近所の子ども(38名 .422)、きょうだい(25名 .278)、高校の職業体験(17名 .189)、ボランティア(17名 .189)、その他(18名 .200)であった。

1998年より実施されているトライやるウィークの影響(兵庫県教育委員会、2004)もあってか、中学校の職業体験で子どもとかわったことがある学生が多いことや、高校において保育などの授業が開講されていることもあり中高時代に子どもと関わった経験がある学生が半数以上

(62 名) いることが分かった。

尚、その他とは、習い事の指導、いここ、いこの子ども、親戚、保育所でのアルバイトである。

(3) 質問紙項目による学生の実習ストレス

学生の実習ストレスをより詳細に見るため、実習ストレス 57 項目の基礎データにおける幅、合計、平均、SD の分析に取り組んだ (Table 1 参照)。

結果、平均が 2.00 未満のもの 7 項目、2.00～3.00 未満のもの 30 項目、3.00～4.00 未満のもの 18 項目、4.00 以上のもの 2 項目となった。また、2.50 未満のもの 28 項目、2.50 以上のもの 29 項目となり、さらに全体の平均が 2.70 であったことから 2.70 を基準に項目数を見ていくと、2.70 未満のもの 32 項目、2.70 以上のものが 25 項目になった。

それらを見ていくと、2.00 未満は「子どもとの関わり」、2.00～3.00 未満は「コミュニケーション」、3.00 以上は「実習生としての生活リズムと保育に関する具体的な援助・指導」に関する項目が多く感じられた。2.70 未満では「子ども・保育者・保護者らとのかかわり」、2.70 以上ではやはり「実習生としての生活リズムと保育に関する具体的な援助・指導」に関わる項目が多い

Table 1 質問紙項目による学生の実習ストレス

		幅	合計	平均	SD
15	・ 日焼けをしてしまう	1～5	153	1.70	.95
56	・ 複数の実習生がいたのでしんどかった	1～5	154	1.71	1.02
12	・ 子どもを長時間抱っこしなくてはいけない	1～5	161	1.79	1.01
34	・ 幼児とのコミュニケーションが取れない	1～4	164	1.82	.87
38	・ 子どもに対する生活の援助がしんどい	1～4	165	1.83	.89
30	・ 子どもの実習生に対する態度が気になる	1～5	168	1.87	1.05
5	・ 実習時間が不規則	1～5	175	1.94	1.14
14	・ 外遊びが多い	1～5	180	2.00	1.22
28	・ 保育者の保護者に対する態度が気になる	1～5	182	2.02	1.18
13	・ 子どもの目線に合わせてしゃがむ	1～5	186	2.07	1.44
21	・ 保育者の思いや指示が分からない	1～5	236	2.12	1.17
35	・ 乳児とのコミュニケーションが取れない	1～5	191	2.12	1.12
10	・ 様々なクラスに入らなくてはいけない	1～5	195	2.17	1.24
25	・ 保育者と園長 (所長) が言っていることが矛盾している	1～5	196	2.18	1.32
46	・ 責任実習が多い	1～5	205	2.20	1.25
41	・ 保護者の子どもに対する接し方が気になる	1～5	202	2.24	1.11
29	・ 園の保育方針に合わせた保育をしなくてはいけない	1～5	203	2.26	1.26
55	・ 実習先が一人だったのでしんどかった	1～5	204	2.27	1.48
36	・ 子どもの行動が気になる	1～5	205	2.28	1.13
27	・ 保育者の子どもに対する態度が気になる	1～5	207	2.30	1.37
18	・ 掃除などの雑用が多い	1～5	209	2.32	1.09
23	・ 担当保育者と上手いいかない	1～5	209	2.32	1.24
31	・ 子どもが言うことを聞いてくれない	1～5	210	2.33	1.18
33	・ 子どもに自分の思いがなかなか伝わらない	1～5	210	2.33	1.09
26	・ 保育者同士の人間関係が悪い	1～5	213	2.37	1.36
37	・ 子どもの発言が気になる	1～5	214	2.38	1.14
16	・ 早く給食を食べなくてはいけない	1～5	216	2.40	1.39
19	・ 保育者同士の連携が取れていない	1～5	222	2.47	1.28

17	.	園の生活になかなかできない	1～5	226	2.51	1.18
47	.	ピアノを弾くことがしんどい	1～5	232	2.58	1.44
32	.	子どもに対する言葉掛けが分からない	1～5	238	2.64	1.16
54	.	常に笑顔でいなくてはいけない	1～5	242	2.69	1.47
42	.	保護者とのコミュニケーションが分からない	1～5	246	2.73	1.19
24	.	複数担任である	1～5	254	2.82	1.44
20	.	保育者に自分の思いや考えを伝えられない	1～5	259	2.88	1.16
3	.	休憩時間がない	1～5	262	2.91	1.39
40	.	子どもに対する注意の仕方が苦手である	1～5	264	2.94	1.29
50	.	責任実習が上手いかわからない	1～5	273	3.03	1.28
49	.	子どもたちの前に立ち責任実習をしなくてはいけない	1～5	276	3.07	1.40
51	.	責任実習のける子どもへの援助と指導が分からない	1～5	279	3.10	1.26
39	.	子どもに対するケンカの援助が分からない	1～5	282	3.13	1.33
6	.	毎日実習に行かなくてはいけない	1～5	283	3.14	1.29
11	.	自分の自由になる時間がない	1～5	283	3.14	1.33
1	.	休みが少ない	1～5	294	3.27	1.33
57	.	かわいい子どもはかわいい	1～5	302	3.36	1.47
4	.	体力的にしんどい	1～5	309	3.43	1.06
53	.	思ったように実習ができない	1～5	309	3.43	1.15
48	.	突然、保育者から責任実習を任されたら困る	1～5	310	3.44	1.38
45	.	設定保育の準備をすることが大変だ	1～5	320	3.56	1.26
9	.	毎日緊張していた	1～5	322	3.58	1.22
22	.	保育者の実習生に対する視線が気になる	1～5	322	3.58	1.32
44	.	指導案を書くことが困難である	1～5	326	3.62	1.29
7	.	睡眠時間が少ない	1～5	331	3.68	1.31
8	.	時間が足りなく、時間に追われている	1～5	340	3.78	1.25
52	.	保育技術の不足を痛感する	1～5	350	3.89	1.11
2	.	実習の疲れが取れない	1～5	368	4.09	.99
43	.	実習日誌（記録）を毎日書くことがしんどい	1～5	3863	4.29	1.00
合計				17400	154.12	69.68
平均				305.26	2.70	1.2225

ことが示された

これらのことから、初めての保育実習において学生がストレスと感ずることは、子どもや保育者・保護者との人間関係よりも学生としての普段の生活と異なる生活パターンや立場、それに付随する責任であると考えられた。

(4) 学生が取り組む実習ストレスの構成要素

学生における実習ストレスの構成要素を見るため、実習ストレス 57 項目について最尤法による因子分析を行った ($KMO = .626$, $\alpha = .921$)。スクリープロットと因子の解釈可能性を考慮し 3 因子を抽出し、因子間に相関があることが予想されるため、プロマックス回転を行った。

次に項目を厳選するため、全ての因子負荷量が $|.400|$ 未満または、複数因子に $|.400|$ 以上の項目がある 22 項目を削除し、残った項目について因子分析から項目削除まで一連の作業を 3 回繰り返した結果、25 項目 3 因子を抽出した (Table 2 $KMO = .754$, $\alpha = .854$)。

第 1 因子は、「責任実習がうまくいかない」、「子どもたちの前にたち実習をしなくてはいけない」らから、「保育技術の不足」の因子とした ($KMO = .815$)。

第2因子は、「保育者同士の人間関係が悪い」、「保育者の子どもに対する態度が気になる」等から、「保育者とのかかわり」とし（KMO=.813）、第3因子は、「時間が足りなく、時間に追われている、睡眠時間が少ない」、「実習の疲れが取れない」、「体力的にしんどい」から、「多忙感と身体疲労」（KMO=.772）とした。

さらに Table 1 と併せて、第1因子に属する項目の平均値を見ていくと、項目 46 と 40 以外は 2.50 以上の数値を示し、第2因子においては全て 2.50 以下、第3因子では全てにおいて 3.00 以上を示した。

以上のことから学生が実習で感じるストレスは、「保育技術の不足」、「保育者との人間関係」、「多忙感と身体疲労」の3因子に分けることができるが、その中でも「多忙感と身体疲労」と「保育技術の不足」を感じている学生が多いと思われた。

Table 2 学生における実習ストレスの構成要素

	F 1	F 2	F 3
第1因子「保育技術の不足」			
50 . 責任実習がうまくいかない	.894	-.107	-.223
49 . 子どもたちの前に立ち責任実習をしなくてはいけない	.859	-.026	-.123
51 . 責任実習における子どもへの援助と指導が分からない	.859	.090	-.204
44 . 指導案を書くことが困難である	.599	-.009	.215
53 . 思ったように実習ができない	.581	.147	.075
52 . 保育技術の不足を痛感する	.572	.052	-.032
45 . 設定保育の準備をすることが大変だ	.560	-.125	.192
46 . 責任実習が多い	.498	.051	.067
48 . 突然、保育者から責任実習を任されたら困る	.478	.092	.027
40 . 子どもに対する注意の仕方が苦手である	.466	.142	.155
6 . 毎日実習に行かなくてはいけない	.441	.191	.170
47 . ピアノを弾くことがしんどい	.414	.121	-.094
第2因子「保育者とのかかわり」			
26 . 保育者同士の人間関係が悪い	-.153	.855	-.112
27 . 保育者の子どもに対する態度が気になる	-.036	.765	-.154
25 . 保育者と園長（所長）が言っていることが矛盾している	.045	.727	-.057
23 . 担当保育者とうまくいかない	.004	.721	-.085
19 . 保育者同士の連携が取れていない	.032	.716	-.089
21 . 保育者の思いや指示が分からない	-.035	.614	.138
18 . 掃除などの雑用が多い	.093	.480	.029
29 . 園の保育方針に合わせた保育をしなくてはいけない	.179	.411	-.169
第3因子「多忙感と身体疲労」			
8 . 時間が足りなく、時間に追われている	.247	.264	.777
7 . 睡眠時間が少ない	.248	.220	.744
2 . 実習の疲れが取れない	.323	.194	.699
4 . 体力的にしんどい	.082	.004	.454
α 係数	.875	.888	.809
因子間相関（左下）・得点間相関（右上）			
第1因子「保育技術の不足」	—	.078	.292**
第2因子「保育者とのかかわり」	.013	—	.096
第3因子「多忙感と身体疲労」	.245	.088	—

**p<.01

(5) 分散分析による検討

「実習に対する思い」の違いによって実習ストレスの3因子の得点に差があるかどうかを検討するために、一元配置の分散分析を行った。

まず、「実習に対する思い」のうち、「実習が楽しかったか」の質問に「とても楽しかった」と「少し楽しかった」と回答した者を「楽しかった」群、「あまり楽しくなかった」、「まったく楽しくなかった」とした者を「楽しくなかった」群、それに「どちらともいえない」群の3群に分類し、実習ストレスの差を検討した。

結果、「楽しかった」群では、「保育者とのかかわりの」因子に有意な差が認められた ($F(2,87) = 8.89, p < .001$)。さらに、Bonferroni 法による多重比較の結果、「楽しかった」群が「どちらともいえない」群、「楽しくなかった」群よりも得点が低く、「保育者とのかかわり」はストレスを感じていないようだった。このことから、「実習が楽しかった」と答えた学生は「どちらともいえない」や「楽しくなかった」と答えた学生よりも、「保育者とのかかわりにおけるストレス」は低くなる傾向が本研究の短大生にみられることが示された。

次に、「実習でストレスを感じたか」の質問に「とても感じた」と「少し感じた」を「感じた」群、「全く感じなかった」と「あまり感じなかった」を「感じなかった」群、それに「どちらともいえない」群を加え、実習ストレスの差を検討した。

結果、実習ストレスの「保育技術の不足」因子 ($F(2,87) = .6.17, p < .005$) と「多忙感と身体疲労」因子 ($F(2,87) = 5.64, p < .01$) に有意な差が見られた。Bonferroni 法による多重比較の結果、「感じた」群は「感じなかった」群に比べ、「保育技術の不足」と「多忙感と身体疲労」ストレスを感じているようだった。このことから、「実習でストレスを感じた」学生は、「感じなかった」学生や「どちらともいえない」学生に比べて、「保育技術の不足」と「多忙感と身体疲労」のストレスが高くなることが分かった。

4. まとめと今後の課題

学生の保育所実習の感想は、実習が楽しかった学生 60 名（とても楽しかった者と、少し楽しかったものの合計）、実習でストレスを感じた者 72 名（ストレスをとて感じた者と、少し感じた者の合計）であった。また、学生の中で実習は「楽しかったがストレスも感じた」は 49 名、「楽しくストレスも感じなかった学生」は 9 名、実習が「楽しくなくてストレスも感じた」は 4 名であった。このことから学生にとって実習はストレスに感じることもあるが、楽しい出来事であるともいえる。

なお、自由記述から楽しかった理由として、子どもとかかわれたことや、保育士との人間関係・職場環境の良さをあげている。一方、ストレスを感じた理由として、保育士との人間関係や拘束時間の長さ、日誌や日々の緊張気疲れを挙げていた。どちらの理由にも、保育士との人間関係があがっていることから、学生にとって実習先における良好な人間関係はとても大切なものであ

ると考えられた。

さらに、質問紙項目に見る学生の実習ストレスにおいては、そのストレス構成要素は3つに分類（「保育技術の不足」、「保育者とのかかわり」、「多忙感と身体疲労」）されることが示された。また、初めての保育実習において学生がストレスと覚えることは、子どもや保育者・保護者との人間関係よりも学生としての普段の生活と異なる生活パターンや立場、それに付随する責任、保育技術そのものの不足であると考えられた。また、学生の「実習に対する思い」の違いによってストレスの構成要素に変化があることが分かった。植田（2002）や千葉（2010）が、実習ストレスに強く関連するストレッサーとして、子どもとの関わりではなく先生との人間関係を述べていることから、先行研究では主に保育士（先生）との関係を中心に見たものが多かった。しかし今回の調査では、実習先の人間関係も学生にとって、保育実習におけるストレスになるが、それ以上に「多忙感や身体疲労」が実習で覚えるストレスと結びついていることが分かった。植田（2002）、千葉（2010）共に2年生を対象とした調査であったので1年生を対象とした今回は違った結果になったと考えられた。2年生の保育所実習を対象とした調査にも取り組み、1年時との変化についても今後調査したい。

注

注1) 短大の園庭開放とは、保育実習Ⅰの授業の取り組みの一つで、学生が近隣の保育所が行っている園庭開放に半日参加するもののことである。

謝 辞

アンケートに協力していただいた学生の皆さん、論文執筆に協力してくれた家族や実家の両親、友人に心から感謝します。

文 献

- 秋田喜代美 2000 保育者のライフステージと危機－ステージモデルから読み解く専門性（特集 保育者の成長と専門性）発達 21(83), 48-52 ミネルヴァ書房
- 千葉弘明 2010 保育所実習における実習生のストレス 千葉経済大学短期大学部研究紀要 6, 77-84
- 兵庫県教育委員会 2004 地域に学ぶ中学生・体験活動週間「トライやる・ウィーク」文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/career/05010502/026/007/001/006.htm
- 北原隆史 1994 実習に於ける健康状態とストレス要因との関連についての調査研究日本保育学会大会研究論文集 (47), 360-361
- 厚生労働省 第1回保育士養成課程等検討会 2009 保育士養成関係資料 参考資料1-3 年度別指定保育士養成施設の施設数及び入学定員の推移
- 厚生労働省 第1回保育士養成課程等検討会 2009 保育士養成関係資料1-4 保育士養成施設卒業生（保育士となる資格取得者）の就職状況 ア 年度別推移
- Lazarus, R. S. & Folkman, S. STRESS, APPRAOSAL, AND CORPING 1984 Springer Publishing Company, Inc. New York (本明寛 春木豊 織田正美 訳 1991 ストレスの心理学－認知的評価と対処の研究－実務教育出版)
- 野崎秀正 森野美映 2007 保育専攻学生における保育者意識と実習ストレスの関連 宮崎女子短期大学紀要 33, 117-127
- 音山若穂 2003 保育実習生のケアリング行動と心理的ストレスの関連 保育士養成研究 (21), 1-8

- 坂田成輝・音山若穂・古屋健 1999 教育実習生のストレスに関する位置研究－教育実習ストレスサーの尺度の開発－ 教育心理学研究 47, 335-345
- 清水彩香 松永あけみ 古谷健 2008 保育実習生の心理的ストレスとストレスサーに関する予備的調査 群馬大学教育実践研究 25, 267-279
- 鈴木隆男 水田和江 2002 実習とストレスとの関係に関する研究 保育士養成研究 20 1-8
- 鈴木隆男 水田和江 2002 保育者養成に関する研究－1. 実習とストレス－ 日本保育学会大会研究論文集 (55), 588-589
- 植田智 2002 保育所実習におけるストレス 鳥取短期大学研究紀要 46, 67-72
- Selye, H. 1976 THE STRESS OF LIFE, revised edition (杉靖三郎 田多井吉之介 藤井尚治 竹宮隆 訳 1988 現代社会とストレス 法政大学出版局)

〔はやし ふくこ 幼児教育・保育〕

④ 実習は楽しかったですか？

- (1 全く楽しくなかった 2 あまり楽しくなかった 3 どちらとも言えない
4 少し楽しかった 5 とても楽しかった)

⑤ ④の理由を教えてください。

⑥ 実習でストレスに感じたことはありましたか？

- (1 とても感じた 2 少し感じた 3 どちらとも言えない
4 あまり感じなかった 5 全く感じなかった)

⑦ ⑥の理由を教えてください。

⑧ あなたは実習に行く前に子どもと関わったことがありましたか？

- (1 あった 2 なかった)

⑨ ⑧で「あった」に○をした人にお尋ねします。それはどのようなかわりでしたか？（複数回答可）

- (1 きょうだい 2 近所の子ども 3 中学の職業体験
4 高校の職業体験 5 高校の授業の一環 6 短大の園庭解放
7 保育ボランティア 8 その他く >)

I. あなたが実習でストレスに思ったことについて、それぞれ記入漏れのないように数字に○をしてください。

	1; 全く思わない	2; あまり思わない	3; どちらともいえない	4; 少し思う	5; とても思う
1. 休みが少ない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
2. 実習の疲れが取れない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
3. 休憩時間がない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
4. 体力的にしんどい.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
5. 実習時間が不規則.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
6. 毎日、実習に行かなくてはいけない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
7. 睡眠時間が少ない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
8. 時間が足りなく、時間に追われている.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
9. 毎日緊張していた.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
10. 様々なクラスに実習に入らなくてはいけない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
11. 自分の自由になる時間がない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
12. 子どもを長時間抱っこしなくてはいけない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
13. 子どもの目線に合わせてしゃがむ.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
14. 外遊びが多い.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
15. 日焼けをしてしまう.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
16. 早く給食を食べなくてははいけない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
17. 園の生活になかなか慣れない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
18. 掃除などの雑用が多い.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
19. 保育者同士の連携が取れていない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
20. 保育者に自分の思いや考えを伝えられない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
21. 保育者の思いや指示が分からない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
22. 保育者の実習生に対する視線が気になる.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
23. 担当保育者とうまいかない.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
24. 複数担任である.....	1	-	2	-	3 - 4 - 5
25. 保育者と園長(所長)が言っていることが矛盾している.....	1	2	-	3 - 4 - 5	
26. 保育者同士の人間関係が悪い.....	1	2	-	3 - 4 - 5	
27. 保育者の子どもに対する態度が気になる.....	1	2	-	3 - 4 - 5	

28 . 保育者の保護者に対する態度が気になる.....	1	2	-	3	-	4	-	5
29 . 園の保育方針に合わせた保育をしなくてはいけない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
30 . 子どもの実習生に対する態度が気になる.....	1	2	-	3	-	4	-	5
31 . 子どもが言うことを聞いてくれない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
32 . 子どもに対する言葉がけが分からない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
33 . 子どもに自分の思いがなかなか伝わらない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
34 . 幼児とのコミュニケーションが取れない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
35 . 乳児とのコミュニケーションが取れない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
36 . 子どもの行動が気になる.....	1	2	-	3	-	4	-	5
37 . 子どもの発言が気になる.....	1	2	-	3	-	4	-	5
38 . 子どもに対する生活の援助がしんどい.....	1	2	-	3	-	4	-	5
39 . 子どもたちに対するケンカの援助が分からない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
40 . 子どもに対する注意の仕方が苦手である.....	1	2	-	3	-	4	-	5
41 . 保護者の子どもに対する接し方が気になる.....	1	2	-	3	-	4	-	5
42 . 保護者とのコミュニケーションが分からない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
43 . 実習日誌(記録)を毎日書くことがしんどい.....	1	2	-	3	-	4	-	5
44 . 指導案を書くことが困難である.....	1	2	-	3	-	4	-	5
45 . 設定保育の準備をすることが大変だ.....	1	2	-	3	-	4	-	5
46 . 責任実習が多い.....	1	2	-	3	-	4	-	5
47 . ピアノを弾くことがしんどい.....	1	2	-	3	-	4	-	5
48 . 突然、保育者から責任実習を任されたら困る.....	1	2	-	3	-	4	-	5
49 . 子どもたちの前に立ち責任実習をしなくてはいけない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
50 . 責任実習が上手いかない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
51 . 責任実習における子どもへの援助と指導が分からない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
52 . 保育技術の不足を痛感する.....	1	2	-	3	-	4	-	5
53 . 思ったように実習ができない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
54 . 常に笑顔でいなくてはいけない.....	1	2	-	3	-	4	-	5
55 . 実習先が一人だったのでしんどかった.....	1	2	-	3	-	4	-	5
56 . 複数の実習生がいたのでしんどかった.....	1	2	-	3	-	4	-	5
57 . かわいい子どもはかわいい.....	1	2	-	3	-	4	-	5